証言 03

最終面接で落ち続け、再度、自分自身を振り返った

教育出版会社入社
武蔵工業大学大学院工学研究科終了
片淵健二さん

Profile
宇宙が好きで宇宙工学の研究をしていたが、研究職になることに疑問を感じ、文系就職を行った。

「なぜ、その会社なのか」その思いが足りなかった

最終面接の段階で、数社、立て続けに落ちてしまったんです。先輩に相談すると、「なぜ、その会社なのかが足りないはず」と言われ、あらためて自分を振り返ってみました。

●就活の流れ

活動前
本当に自分は研究者になりたいのか、自分はどういう将来を歩んでいきたいのかを真剣に考えた。

活動初期
研究とは関係なく、「人」や「教育」をキーワードに企業研究を進める。人材コンサルティング会社や教育出版会社などを中心にエントリー。

面接
選考は順調な滑り出し。面接でも、自分がこれまでに考えていたことをそのまま語ることで、好感触を得る。2次面接、3次面接と、順調に進んでいく。

最終面接段階
ほとんど大丈夫と思っていた5〜6社の最終面接で、立て続けに落ちる。

内定
教材開発などを通じて人の成長のきっかけになることをしたいという思いを存分に語り、教育出版会社に内定！

●自己分析ステップ

STEP 1 自分が熱中してきたことと、その理由を考える

そもそも宇宙工学を勉強したのは、単純に宇宙が好きだったから。子どもの頃からの夢の実現でした。でも、研究室にこもる研究生活そのものには魅力を感じられなかった。逆に、趣味のスキューバダイビングなどで後輩に教えたり、多くの人と関わる場所にいるときのほうが、自分はイキイキできたんです。研究よりも、「人」が好き。自分の本音に忠実になることを決心しました。

STEP 2 「なぜ『人』にこだわるのか？」「どう関わりたいのか？」

「人」をキーワードにするものの、なぜ人なのか、人とどう関わりたいのかを考え続けていました。企業活動において、人と関わらない仕事は基本的にないわけですから。

自己分析も兼ねて毎日書いていた日記には、この頃、「自分は社会とどう関わっていきたいのか、何を発信していきたいのか」を書き連ねていました。

STEP 2 その会社でなければいけない理由は何か

焦りました。「どうしてなんだ？」という思いが強かった。そこで、先輩に相談してみたんです。すると、「どうしてもその会社に入りたいという熱意が伝わっていないのかも」と言われました。実際、その会社でなければ実現できないことをあまり話していなかった。そこであらためて、各企業でどういうことを実現していきたいのかを考えました。

●考えたこと・書き出したこと

書き出したこと

●何で宇宙だったのか？
・昔から図鑑を見たり、純粋に感動できた。夢だった。

●研究職に就きたいのか？
・研究室にこもる生活には興味がわかない。研究活動でも、情報交換会などの幹事をしたり、人と関わることが好き。

●これまでに熱中したこと
・スキューバダイビング
後輩たちを連れて行き、指導するなど、人の面倒を見るのが好き。
・駅伝
サークルの仲間と、箱根までの駅伝大会を敢行したことがある。様々な準備をし、みんなで力をあわせて実現させたことは、大きな感動。

日記より

●人の心に残って、変化のきっかけになり、感動させられるようなこと（キャリア、就職活動などなど……）。グループ、組織の意識や価値観を考え直させるようなことがしたい。

●私は多くの感動を味わいたいという欲がある。ワクワクするようなテンションが上がっていくあの感覚が好きだ。特に対ヒトに関するところだと思う。講演活動、スポーツ、メディアを通じて、何かを世の中に訴えかけていきたいが、何を？

そこで 「人材教育」に関わる仕事が選社基準になる。

日記より

4月8日
××社に落ちた。正直言って、当然かなという気持ち。××社に対するこだわりが伝え切れなかったというより、こだわりそのものが少なかったことが一番の原因だろう。自分が今面接を受けている会社に絶対に入社して大活躍するんだという気持ち、それを伝えるコミュニケーション能力が必要だ。当たり前のことだが。

そこで ●説明会のメモを見ながら、どうしてその企業でなければいけないのかを考える。
●その企業でこそ実現できることを考える。
●具体的に自分がどんな取り組みをしたいのか考える。

膨大な量のファイルになっている日記。自分を客観視する「自己分析」に大いに役立った。

何度も読み返し、ポイントとなる部分には赤線を引いたりした。

自分がなぜ「人」に関わりたいのか。整理するために自分と社会の関わりを図にしてみた。

自分が社会とどう関わっていきたいか

自分のこれまでの活動を振り返ると、人との関わり方や社会との関わり方での興味の方向が見えてくるはず。

同じことをしているようでも、「面白い」と思うポイントは人それぞれだ。そこで、自分がワクワクできたことは何で、それはどうしてだったのかを考えてみる。その「ワクワク感」を体験できる仕事を探していくことも大事なのだ。

将来を考えたときに、自分がどう社会と関わっていきたいのか、大きな夢を語れるようになることも大切だ。

個別の企業で実現したいことも考える

大きな価値観を基準にして企業を選択していった結果、「どうしてその企業でなければいけないのか」という決定打が出せないことがある。

しかし、最終的に残った数社のなかから最後の1社を絞っていくには、具体的にその会社ならではの理由が必要になる。企業の側からすれば、「この人にこそ入社してもらいたい」と思わせてくれる熱意を求める。熱意は、その会社で実現したいことをきちんと話せるかどうかでもわかる。

就職活動が進み、様々な企業を見てきたからこそ、「なぜここを選んだのか」というポイントを、十分言葉にすることが必要だ。

こんな場面に出会っていない!?

再・自己分析へのシグナルをキャッチせよ！

就職活動のなかでは、
「もう一度自己分析をすべき！」
というシグナルを、実はたくさん受け取っている。
そこで、こんな場面に出会ったら、
自分をさらに深めるキッカケにしてみよう。

- □ エントリーシートで、なかなか記入できない項目がある。
- □ 興味を持つ企業の特徴がバラバラ。
- □ 面接で、やたらと「なぜ？」と問われる。
- □ 面接で、答えに詰まる質問がある。
- □ どうしてその企業に入社したいのかが、明確に答えられない。
- □ 自分ではうまくいったと思う面接が、次に進まない。
- □ 選考が進むほど、一緒に受けているほかの学生との違和感を感じる。

就職活動のためだけではなく、「自分はどう生きるのか」を考え続けることが大切

「自己分析」は、自分の価値観探し

自己分析をするというと、テクニック的なことを考える人も多い。ありがちなのが、「何を言えば企業受けするのか」というネタ探しを自己分析だと思っているケース。しかし、それでは面接で人の心を打つことはできない。

ここに登場してくれた先輩たちの例を見ても、結局は、「自分は何者なのか」「将来をどう生きたいのか」といった自分探しをしている。自分の価値観を、人にわかりやすく伝えるために、具体的な言葉にしていくのが自己分析なのだ。

説明会や面接のなかでも深めていく

説明会や面接など、人と接する場面は、自分を見つめ直す絶好の機会といっていい。

例えば説明会で心に残った言葉があれば、どうしてその言葉に惹かれたのか考える。面接で、「なぜ？」と問われたことに対して、素直な気持ちでわかりやすく話すことができたか考えてみる。

その繰り返しのなかから、本当に自分自身を発見していくことができるのだ。

自己分析は一度で終わるものではない。何度も繰り返すことが大切だということを意識して、最後まで頑張ろう。

片淵さんからADVICE

ひたすら自分の思いを書いてみる

私の場合は、あらためて「自己分析」をするというより、出会った人や企業のこと、自分の考えや思いなどを、毎日のように日記につけていました。そもそも、就職を意識し出した頃から始めたことなのですが、これがすごく役立った。

漠然と考えていたことも、文章にしてみると矛盾点がわかってくるし、自分自身の確認にもなります。折に触れ読み返し、自分のことを客観的に考えるようになりました。これはすっかり習慣になり、内定してからもずっと書き続けています。「文章化する」ことは重要です。